
星降る夜に

葛根湯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星降る夜に

【Nコード】

N6331I

【作者名】

葛根湯

【あらすじ】

通学中に浮かんだ妄想を具現化。

流れ星の降り注ぐ夜空を舞台にした恋愛ものです。

多分甘いはず……。 (笑)

（前書き）

とりあえず、普段あまり執筆をしないので、至らない、不自然な部分が多々あるやもしれません。

（いや、むしろ必ずあると思います）

そんなこんなで情けないですが、どうぞ広い心で読んで頂けるとありがたいです。

漆黒の闇を司る夜空、そしてその闇の中に散りばめられた星達と、微笑むように優しく光る月。

疲れたり、嫌な事があった日も、そんな星空を見上げると自然と頬が緩んだものだ。

そんな生き物達の母のような夜空が、今日はいつもと違った表情を見せるらしい。

「ほら優君、早く早く！」

そう言つて階段を駆け上がりながら、急かすように僕を見つめる女の子。

彼女は優香。

お隣さんであり、僕の幼馴染である。

普段はのんびりマイペースな彼女なのだが、今日は朝から妙にテンションが高かった。

一緒に学校へ行くときもスキップのような軽い足取りだったし、お昼の時も窓から外を見ては、笑ったり、ソワソワしたり。

あ、でも授業中はいつも通り夢の中に行つてたっけ。

まあ、今日に限っては仕方がない事だろう。

なぜなら……――

屋上のドアを開けると、そこはもう、別世界だった。

幾千、幾万……いや、それ以上の星という子供達が、月という母を中心に踊り回り、駆け抜け、笑っている。

それはもう、幻想的というよりはむしろ、圧巻というべきものだ。

恐らく、世界中全ての光を集めて照らしても、この夜空の明るさと美しさには適わないだろう、僕はぽかんと口を開けたまま、そんな

事を考えていた。

「……ねえねえ、優君。願い事しなきゃ！ 沢山流れ星が流れているんだから、沢山お願いしないと損だよ！」

優香が思い出したように言った。

その口元が少し濡れている。

成る程、彼女も僕と同じように今まで見惚れていたのか。

得意気に口元を拭ってあげると、彼女は恥ずかしそうに、「優君もね」と、僕の口元を拭った。

おあいこか、得意気にやった手先、ちよっと恥ずかしくなる。

「……んー、願い事かあ」

恥ずかしさを隠す為に声を上げてみたが、いざ願い事といわれると、あまり頭に浮かんでこない。

将来の夢？ まだ霞がかつたような感じなのに。

お金？ 願い事としては一番無難だけど、これほどの星空にこんな下心みえみえな願い事はしたくない。

老後の事？ 今から心配することかなあ。

結局どれもイマイチだ、これだって願いが浮かばない。

……そういえば、優香はどんな願い事をしているのかな。

―猫が飼えますように。

―お金持ちになれますように。

―頭が良くなりますように。

―胸が大きくなりますように。

……………。

いや、僕は何も言わないよ。

だって女の子なんだから。

悩み多き、願い事多きな乙女なんだから、うん。

そう勝手に納得していると、優香が急に手をつかんできた。

驚いて顔を向けると、優香はいつの間にか僕の方に顔を向けている。

その顔は少し緊張していて、そして気のせいかな、頬が紅い。

なんかこう……妙に色っぽいような……。

「ど、どうしたの？」

なんとか平常心を保って言葉を呟いたつもりだが、果たしてどうなのだろう。

心なしか声のトーンが普段じゃ出せないほど高くなっていたような気がする。

「……あのね、最後の願い事は、優君の手を繋がないと駄目なの」

そう僕に対してか、それとも自分に対してか、よく分からないが強く言いあげると、再び星空に顔を向けなおした。

流れ星が走り出す。

優香は、小さく、でもしっかりと、呟いた。

——この繋いだ手と手が、いつまでも離れませんように。

今日はいつもと違う夜空。

人と同じく星達も嬉しいのか、僕達の願いをいたずらに何処かへと持ち去っていく。

願わくば、その願いを成就の元へ運んでくれますように。

（後書き）

いや……なんていうか、読み直してみると「これはひどい」の一言しか浮かびませんね。

ただ、恋愛モノは好みというか、自分に合う気がするので、これからもちよこちよこ書いていこうと思います。

アドバイスや感想など頂けるととても、とっても嬉しいです！はい！

辛口な意見も大歓迎です！むしろ大感激です！（え

それでは、拙い文章を最後までお読み頂きありがとうございます。どうぞこれからもご贔屓に！お

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6331i/>

星降る夜に

2010年12月11日00時43分発行